

平成 22 年 5 月 19 日現在

研究種目：若手研究B
 研究期間：2008～2009
 課題番号：20730369
 研究課題名（和文） オーストラリアのソーシャルワーク理論におけるエスニック・アイデンティティ言説
 研究課題名（英文） Ethnic identity discourse in social work theory in Australia

研究代表者
 舟木 紳介 (Funaki Shinsuke)
 福井県立大学・看護福祉学部・講師
 研究者番号：50315842

研究成果の概要（和文）：

オーストラリアの多文化ソーシャルワーク研究における言説分析および実践分野におけるインタビュー調査を実施し、理論的に批判されていた移民によるエスニック・アイデンティティの本質主義的な表明は、多文化共生をめざしたエスニック・マイノリティ自身による戦略的な活用でなりうるようになった。さらに移民当事者や支援組織のエスニック・アイデンティティの創出は、具体的な社会福祉活動だけでなく、ICTを活用したヴァーチャルなインターネット・コミュニティにおいても重要になりつつあることが分かった。

研究成果の概要（英文）：

Ethnic identity has been criticized in multicultural social work discourse in Australia. However, research revealed that essential practices of ethnic identity by migrants were a strategy by ethnic minorities to promote multicultural society. The production of ethnic identity by ethnic communities was seen not only in actual social welfare activities but also in the virtual internet community through Information Communication Technology (ICT).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	500,000	150,000	650,000
2009 年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
年度			
総計	800,000	240,000	1,040,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：多文化、ソーシャルワーク、エスニック・アイデンティティ、移民

1. 研究開始当初の背景

オーストラリアは、1970 年代以降、アジア、アフリカからの移民・難民が急増し、多文化主

義政策の下、既に多くのエスニック・マイノリティが多文化ソーシャルワーク（多文化社会に

において文化的・言語的に多様な人々に対する文化的・言語的な多様性に配慮したソーシャルワーク)の実践に参入し、大都市では各国のエスニック・コミュニティが独自の社会福祉活動を行うようになってきている。

近年のオーストラリアの文化研究では、ポストモダニズムの影響下、エスニック・マイノリティのアイデンティティの本質主義的理解が批判され、主体の反本質主義の視座を採用することが主流になってきた。自己の同一性を基本としたアイデンティティを脱構築し、ハイブリッドなアイデンティティに再構築する反本質主義的な考え方は、近年の日本の社会学領域でも重要視されるようになった。一方、オーストラリアのソーシャルワーク研究において、エスニック・マイノリティに対するソーシャルワークは重要な研究領域であり、1990年代以降の研究では、特にポストモダニズムの影響を受けたクリティカル・ソーシャルワークが多文化ソーシャルワークに関する教育・実践に影響を与えるようになった。

近年我が国でもグローバルな越境移動と定住者が増加し、医療・福祉分野での「多文化ソーシャルワーカー」の育成が叫ばれる一方で、エスニック・マイノリティの福祉専門職の社会的位置づけの検討は始まったばかりである。しかし、日本の国際・多文化ソーシャルワーク研究の多くは、主流の「日本人」が文化的に配慮しながら滞日外国人を支援することを前提とし、エスニック・マイノリティ自身による社会福祉活動やエスニック・アイデンティティに関する調査研究の蓄積は少ない。このような背景から、オーストラリアのソーシャルワーク理論を取り巻くエスニック・アイデンティティ言説を調査・分析することは、グローバル化する日本社会における多文化ソーシャルワーク理論の構築における課題を考える上でも重要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、オーストラリアのソーシャルワーク研究、特にポストモダニズムの影響を受けたクリティカル・ソーシャルワーク理論において、エスニック・マイノリティのエスニック・アイデンティティがどのように論じられているかを調査・分析し、多文化ソーシャルワーク理論の構築における課題を明らかにすることである。本研究は、多文化社会オーストラリアのソーシャルワーク研究をケーススタディとして、これまでわが国で議論されてこなかった多文化ソーシャルワークの当事者であるエスニック・マイノリティのエスニック・アイデンティティの言説について分析することを目的としている。エスニック・マイノリティをどのように支援するかということだけでなく、エスニック・マイノリティが多文化社会の形成のためにどのようなアイデンティティを持って、ソーシャルワーク実践を行うかという言説の分析を行う試みである。ソーシャルワーク研究でいえば、援助を受ける側の当事者がエスニック・マイノリティというアイデンティティを持つ意味を問うと同時に、援助を行う側の実践者や専門職がエスニック・マイノリティという当事者性のアイデンティティを持つ意味を再考することが重要な研究の視点である。本研究は、多文化ソーシャルワークにおけるポストモダニズムの影響を調査することで、グローバル化した日本においてハイブリッドで多様なアイデンティティが受け入れられる多文化共生社会の構築に資するような理論構築を目指した。

3. 研究の方法

初年度にあたる平成20年度は、オーストラリアのソーシャルワーク理論研究およびオーストラリアを中心とする西欧諸国の文化研究・社会学・移民研究に関する文献データベースからエスニック・アイデンティティ、多文化、移民に関する用語の検索、整理分類を現地研究協力者と共同で行った。ソーシャルワーク理論、特

にポストモダニズムの影響を受けたクリティカル・ソーシャルワーク理論が既存の近代のソーシャルワーク理論にどのような影響を与え、マイノリティをどのように論じてきたについてテキスト分析を行った。

2年目にあたる平成21年度は、前年度に行ったテキスト分析を継続し、抽出された課題の分類を元に、多文化ソーシャルワーク理論の構築における課題を明らかにした。文化研究、多文化主義研究におけるエスニック・アイデンティティの理論研究の動向との関連性についても海外研究協力者の協力によって、テキスト分析を行った。その後、オーストラリアのソーシャルワーク理論におけるエスニック・アイデンティティをめぐる理論言説が多文化ソーシャルワーク実践にどのように影響を与えているかを検証するために、オーストラリアにて移民定住支援に関わるソーシャルワーカーおよびエスニック組織代表にインタビュー調査を行った。

4. 研究成果

オーストラリアのソーシャルワーク理論研究のデータベースから、エスニック・アイデンティティ、エスニック・マイノリティに関する論文を収集し、テキスト分析を行った。テキスト分析結果から、ポストモダニズムの影響を受けたオーストラリアのソーシャルワーク理論は、1990年代以降、近代の枠組みにおいて考えられてきたクライアントのアイデンティティやニーズを言語、言説、権力によって社会的に構築されてきたものとしてとらえ始めたことが分かった。しかし、そのようなポストモダンな影響を受けたクリティカル・ソーシャルワーク理論は、エスニック・アイデンティティという移民が福祉実践を通じて利用しうる枠組みに対して、アイデンティティの政治批判を展開していた。そのようなアイデンティティの社会的構築性の指摘およびその本質主義性に対する批判は、エス

ニシティといった移民分野のみならず、女性のジェンダー・アイデンティティにおいても文化研究の影響もあり、同様に批判が展開されていた。クリティカル・ソーシャルワーク理論がオーストラリアの教育カリキュラムに与えている影響について英語論文にまとめ、平成21年3月にオーストラリア学会誌に掲載された。

また、多文化ソーシャルワークやエスニック・コミュニティの福祉活動の実践分野でのエスニック・アイデンティティ言説を検証するために、オーストラリアにて移民定住支援に関わるソーシャルワーカーおよびエスニック組織代表にインタビュー調査を平成21年2月に行った。調査分析結果から、ポストモダン・ソーシャルワーク理論におけるエスニック・アイデンティティの表出は本質主義的であることが批判される一方で、エスニック・コミュニティ組織の実践レベルではエスニック・アイデンティティが戦略的に創出されていることが分かった。

さらに日本人コミュニティ福祉組織およびその他のエスニック・コミュニティ組織の社会福祉活動に関するケーススタディから、文化的・言語的背景を共有するエスニック・コミュニティの福祉活動は、その本質主義的要素からクローズで他のエスニック組織やローカルな社会と交わらない可能性があると考えられるが、実際にはオーストラリアの多文化社会の構築のために平和活動や社会貢献活動を行い、多文化共生に向けたエスニック組織活動の意味づけに変化させていた。またジェンダーやエスニシティといったアイデンティティの実践レベルでの活用をポストモダンの発想から批判することは、ネオリベラル化する社会においては、エスニック・マイノリティがアイデンティティを柔軟な（フレキシブルな）概念として戦略的に活用する機会を奪い、ますます社会的に弱体化させる要因にもなりうるということが明らかになった。さらにエスニック・アイデン

ティティの活用は、具体的な福祉活動の中で構築されるだけでなく、インターネット上のバーチャルなコミュニティにおいて構築されることが最近の若者移民の特徴であることが分かった。これらの点については、2009年にニュージーランドで開催されたアジア太平洋ソーシャルワーク教育会議（20TH ASIA-PACIFIC SOCIAL WORK CONFERENCE）に参加し、演題発表を行った。

上記調査結果の分析から、オーストラリアの多文化ソーシャルワーク実践におけるエスニック・アイデンティティの創出の鍵としてICTの活用（ICTメディアおよびソーシャルネットワークワーキングサービスSNS）の重要性が確認できた。日本においても多文化ソーシャルワークにおけるICTの活用の意味を検証するために、福井県内において試験的に「外国人のためのパソコン学習会」を複数回開催し、学習会の運営においても地域SNSであるフレックスを活用し、参与観察や外国人参加者へのインタビュー調査を試みた。

調査結果から、外国人の方々にとってパソコン、ICTを学びたくても、学ぶ場、機会がない、職場、家族、友人に聞ける人が周りにいないことが分かった。家族や職場で周りにパソコンができる人もいる場合であっても、教えてもらうことは容易でない人もいた。また、日本語パソコンはローマ字入力が一般的であるが、ローマ字が読めない外国人が複数いることが分かった。自分でインターネットを中心にだけ使っている人やワープロ機能だけ使っている人は、一部の機能だけを知っていて、ウインドウズの基礎、パソコンの基礎的な知識が欠いている場合がある。つまり、オーストラリアの移民コミュニティの事例と比較すると、日本の外国人コミュニティは、ICTの技術を習得するための公的なサービスも少なく、エスニック・アイデンティティをICT上で創出する機会が十分に得られて

いなかった。

また、パソコンを学習することはコミュニケーションの幅を広げて、様々な人をつなげる場となった。パソコン技術を学ぶことに加えて、つながりを求めて参加してくる人もいた。ある方は、パソコンは一人で勉強してある程度日本語入力はできていたが、日ごろの生活で日本人と出会う機会もなく、パソコンをコミュニケーションツールとして活用する機会もない。そういう意味で、学習会は多様な背景を持つ人々（普段の生活では出会いにくい環境）がつながる場となった。さらに単に教える側の日本人と参加者外国人の出会いだけでなく、教える側同士、参加外国人同士が繋がった。

また、参加した学生にとって「教えること」により「学び」とは何かを知るきっかけとなり、現実社会でのあたらしいつながりへの楽しさとなっていた。パソコンの話題からは、必然的に日常生活での趣味、仕事などの会話につながり、会話の中から異なる文化、習慣、価値観等を話し合っていた。学習会を開始するにあたって、準備の議論および日本人参加者の広報は、SNSを通じて行った。SNSで日本人側参加者がネット上で出会い、さらにその人が直接知っている人（教員、他大学学生、外国人支援NPO）につなげ、対面の交流、情報交換だけでは広がらないネットワーク形成につながったといえる。またSNSが仮想事務局として書類管理、議事録、情報共有の役割を一度に担い、企画・運営に効果的であった。しかし、Facebookのようなインターフェースが多言語で表記されるSNSであれば交流しやすいが、日本語環境の地域SNSに参加するには言語的バリアーは高い。第1世代の外国人にとってはSNSに参加できる人は限られる。一方で、第2世代、外国籍の子供たちは既に高校生、大学生になっている人たちもいるが、日本語を母国語相当レベルで使用できる人とそうでない人がいる。彼らをヴァ

一チャルなコミュニティ形成にどう巻き込むかということも重要な視点であろう。調査結果について、2010年に香港で開催される国際ソーシャルワーク連盟世界大会（2010 Joint World conference on Social Work and Development）に参加し、演題発表を行う予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

Shinsuke Funaki, The Current Trends of Social Work Theory Subjects in Australian Social Work Education, オーストラリア研究（オーストラリア学会誌）, 2009, 60-72.

〔学会発表〕（計1件）

Shinsuke Funaki, Keiko Yokota, Linda Sun, Multicultural Social Work and Ethnic Identity Positioning -A Case Study of Social Welfare Activities by Japanese Community Organizations, 20th ASIA PACIFIC SOCIAL WORK CONFERENCE 2009, 2009年11月9日～11日, Auckland, New Zealand.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

舟木 紳介 (Funaki Shinsuke)

福井県立大学・看護福祉学部・講師

研究者番号：50315842